

武田隆男氏が自ら会長を務める武田病院グループの基幹病院の一つである武田病院と医仁会武田総合病院では、早くから高度先進医療を取り入れた救急医療体制を確立。循環器疾患に対する24時間診療体制を民間病院として初期に導入。また、スポーツリハビリの可能性なりハビリテーションも充実させた。さらに、開放型病床の設置、慢性型疾患児家族宿泊施設の整備を行い、厚生労働省臨床研修病院指定、臓器提供病院指定などを受け、高機能な大規模医療施設を完成させた。

この他、機能分担された8病院をはじめ、クリニックや老人保健施設、そして訪問看護ステーションなど、多種多様な施設を開設し、京都の地域医療に大きく貢献している。

さらに、社会福祉法人青谷福祉会・悠仁福祉会では、京都府内に経費老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人短期入所、老人デイサービス、老人介護支援センター、在宅介護支援センター、訪問介護ステーション等を開設・運営し、職員の教育に尽力した。現在も地域の福祉で重大な役割を担っている多くの施設の創設に携わった。

その他、武田氏は社団法人日本病院会の理事に就任して以来、数々の事業に携わり、多くの業績を残したが、中でも、感染症委員会創設の必要性を訴え、全会員に対し院内感染に関する実態調査を実施。調査結果を発表するとともに、感染症対策

「365日24時間を通して、ある程度の検査や処置ができ、それでいて患者さんにところへも気軽に往診もする」といった病院を作りたいという理想から、現在では先進医療も積極的に取り入れ、計60施設のグループに発展し、地域に貢献。理想の病院を実現するための確固たる理念は、**常に患者さんの立場に立った「思いやりの心」**



第44回日本人間ドック学会にて

セミナー、感染症海外視察研修を企画し、感染症に関する知識の普及に尽力した。一方、感染管理スタッフの育成にも努め、年3クールを1コースとする「感染管理講習会」を企画・実施している。また、京都市HIV感染症対策専門委員会委員、院内感染対策有識者会議委員なども務め、感染症対策に関する情報の共有、知識の普及に尽力。さらには、京都の地域医療活性化に多大な影響を及ぼし、人材育成や知識の普及にも貢献している。



■学会で感謝状を授与される武田氏

たけだ たかお
武田 隆男 武田病院グループ 会長



1931年生まれ。1958年京都大学医学部卒業。1967年より京都大学講師、関西医科大学助教授。1996年より武田病院グループ会長。1999年より2007年まで日本病院会 副会長、その後、顧問を務める。その他、日本国際連合協合理事、京都地方裁判所民事調停委員など、活動は多岐にわたる。

推薦者 **山本 修三** 社団法人 日本病院会 会長